

## 2022 年度 日本医科大学 前期

### 【 講 評 】

大問は例年通り 4 題で形式に変化はなかった。手がかからないような難問は無く、比較的解法を定めやすい問題が多かったが、計算量が多く、得点に結びつけるのは容易ではない。以下、大問ごとに特徴を述べる。

- [I] 複素数平面上の点の軌跡に関する典型問題であった。この問題は計算量もそれほど多くないので、確実に得点したい。
- [II] 問 1 は簡単な条件付き確率の問題であるから落とせない。問 2 は格子点の個数を求める典型問題である。 $n$  の偶奇での場合分けに注意が必要である。問 3 は問 2 ができていれば、容易に解ける問題であろう。これも確実に得点したい問題である。
- [III] 2 次曲線の楕円と直線、微分法 (数Ⅲ) の最大・最小の融合問題であった。問 1 から問 3 は 2 次曲線の問題の特性に加えて、文字が多いことから計算が多いが、ミスなく正解を導きたい。類題を解いた経験があれば、要領よく計算ができたであろう。また、問 5 の最大・最小はいくつかの解法があるが、いずれも難易度が高い。ここは解ききれなくてもよいだろう。模範解答を参考に、復習に役立ててもらいたい。
- [IV] 数Ⅲの微分法、積分法に関する典型問題である。問 1 は関数の増減、曲線の凹凸を調べてグラフを図示するだけであるが、対数を用いないと計算が大変である。問 2 は  $y$  軸周りの回転体の体積であるが、逆関数を用いる解法だと計算が煩雑になるため、バームクーヘン分割を用いると良いだろう。ウォリスの公式を覚えていれば、定積分計算を容易に済ませることができる。

全体的な難易度は昨年と同程度である。全体で 6 割程度の得点をしたい。

お問い合わせは ☎0120-302-872

<https://keishu-kai.jp/>

【 解 答 】

〔Ⅰ〕複素数平面（数Ⅲ）【標準】

ア：2, イ：4, ウ：2, エ：2, オ：2, カ：2,  
キ：2, ク：2, ケ：2, コ：26, サ：13,

〔Ⅱ〕確率（数A）／数列（数B）【標準】

問1  $p = \frac{x}{x+5y}$

問2 
$$N(n) = \begin{cases} \frac{1}{4}n(n+4) & (n : \text{偶数}) \\ \frac{1}{4}(n^2+4n-1) & (n : \text{奇数}) \end{cases}$$

問3  $n = 87$

〔Ⅲ〕2次曲線（数Ⅲ）／微分法（数Ⅲ）【やや難】

問1  $\left( \frac{ma^2}{\sqrt{a^2m^2+b^2}}, \frac{b^2}{\sqrt{a^2m^2+b^2}} \right)$

問2  $\frac{\sqrt{a^2m^2+b^2}}{\sqrt{m^2+1}}$

問3  $\frac{m(a^2-b^2)}{\sqrt{(m^2+1)(m^2a^4+b^4)}}$

問4  $\frac{a^2-b^2}{a^2+b^2}$

問5  $\frac{3+4\sqrt{3}}{13}$

〔Ⅳ〕微分法・積分法（数Ⅲ）【標準】

問1 ア：7, イ：13, ウ：18, エ：12, オ：3, カ：13, キ：3  
(グラフは解答参照)

問2  $\pi\left(\frac{8}{3} - \frac{3}{4}\pi\right)$

【 解 説 】

[ I ]

$$w = \frac{(4+2i)z+4-4i}{z+2-2i} \text{ より}$$

$$w(z+2-2i) = (4+2i)z+4-4i$$

$$(w-4-2i)z = -(2-2i)w+4-4i$$

$w=4+2i$  のとき, 等式は成り立たないから  $w \neq 4+2i$  であり,

$$z = \frac{-(2-2i)(w-2)}{w-(4+2i)}$$

$P(z)$  は中心が  $O$ , 半径が  $2$  の円上にあるとき,  $|z|=2$  が成り立つから

$$\left| \frac{-(2-2i)(w-2)}{w-(4+2i)} \right| = 2$$

$$\sqrt{2}|w-2| = |w-(4+2i)|$$

両辺を  $2$  乗すると

$$2(w-2)(\overline{w}-2) = \{w-(4+2i)\}\{\overline{w}-(4-2i)\}$$

$$w\overline{w} - 2iw + 2i\overline{w} = 12$$

$$(w+2i)(\overline{w}+2i) = 16$$

$$|w+2i|^2 = 16 \quad \therefore |w-(-2i)| = 4$$

よって, 点  $Q(w)$  は複素数  $\alpha = -2i$  で表される点  $A(\alpha)$  を中心とし, 半径  $r=4$  の円上を動く.

この円と円  $C$  との共有点が  $z=w$  を満たす点  $B(\beta)$

であるから, 右の図より

$$\beta = 2i$$

また

$$\begin{aligned} z-w &= z - \frac{(4+2i)z+4-4i}{z+2-2i} \\ &= \frac{z(z+2-2i) - (4+2i)z - 4 + 4i}{z+2-2i} \\ &= \frac{z^2 - 2(1+2i)z - 4(1-i)}{z+2-2i} \\ &= \frac{(z-2i)(z-2-2i)}{z+2-2i} \end{aligned}$$

$$\text{よって } z \neq \beta = 2i \text{ のとき } \frac{z-w}{z-\beta} = \frac{z-2-2i}{z+2-2i}$$

$$\sqrt{5} PQ \leq BP \text{ が成り立つとき } \sqrt{5} \frac{PQ}{BP} \leq 1$$

$$\frac{PQ}{BP} = \left| \frac{z-w}{z-\beta} \right| \text{ であるから } \sqrt{5} \left| \frac{z-2-2i}{z+2-2i} \right| \leq 1$$

両辺を  $2$  乗して整理すると

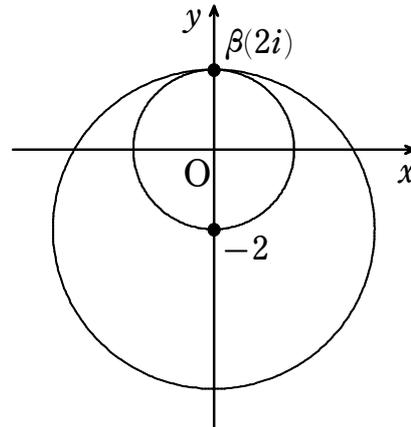
$$5(z-2-2i)(\overline{z}-2+2i) \leq (z+2-2i)(\overline{z}+2+2i)$$

$$z\overline{z} - (3-2i)z - (3+2i)\overline{z} \leq -8$$

$$\{z-(3+2i)\}\{\overline{z}-(3+2i)\} \leq 5$$

$$|z-(3+2i)|^2 \leq 5 \quad \therefore |z-(3+2i)| \leq \sqrt{5} \quad \dots\dots \textcircled{1}$$

よって, 点  $P(z)$  は, 中心が  $C(3+2i)$ , 半径が  $\sqrt{5}$  の円の周上及び内部に存在する.



また、点  $P(z)$  は円  $C$  上の点でもあるから、右図の太線部分に存在する。

図のように 2 点  $X, Y$  をとると、 $BP$  が最大となるのは  $P=X$ 、 $BP$  が最小となるのは  $P=Y$  のときである。

$P=X$  のとき  $z=2$  であるから、最大値は

$$|2-2i|=2\sqrt{2}$$

次に、 $P=Y$  のときについて考える。

$z=x+yi$  とおくと、 $z$  は円  $C$  上かつ ① を満たすから

$$\begin{cases} x^2+y^2=4 & \dots\dots ② \\ (x-3)^2+(y-2)^2\leq 5 & \dots\dots ③ \end{cases}$$

② と ③ の境界線の差をとると

$$6x-9+4y-4=-1 \quad \therefore y=\frac{1}{2}(6-3x) \quad \dots\dots ④$$

② に代入すると  $x^2+\frac{1}{4}(6-3x)^2=4$

$$(x-2)(13x-10)=0 \quad \therefore x=2, \frac{10}{13}$$

$x=\frac{10}{13}$  のとき ④ より  $y=\frac{1}{2}\left(6-\frac{30}{13}\right)=\frac{24}{13}$

よって、 $z=\frac{10}{13}+\frac{24}{13}i$  のとき  $BP$  は最小となるから、その最小値は

$$\left|\left(\frac{10}{13}+\frac{24}{13}i\right)-2i\right|=\frac{2}{13}\sqrt{10^2+(24-26)^2}=\frac{2\sqrt{26}}{13}$$

**別解 1** 軌跡は「アポロニウスの円」によって求めてもよい。

$\sqrt{2}|w-2|=|w-(4+2i)|$  より、点  $Q(w)$  は 2 点  $2, 4+2i$  を結ぶ線分を  $1:\sqrt{2}$  に

内分する点  $\frac{1\cdot(4+2i)+\sqrt{2}\cdot 2}{1+\sqrt{2}}=2\sqrt{2}+(2\sqrt{2}-2)i$

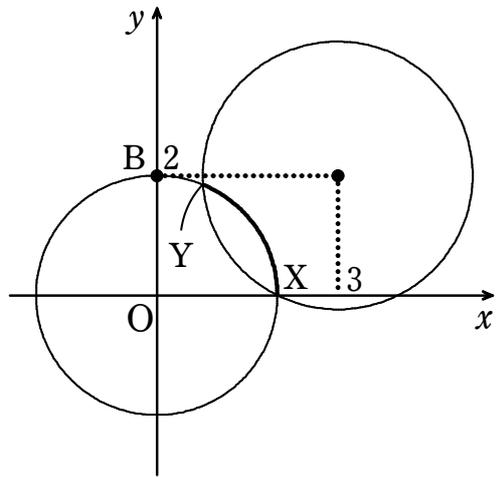
外分する点  $\frac{-1\cdot(4+2i)+\sqrt{2}\cdot 2}{-1+\sqrt{2}}=-2\sqrt{2}-(2\sqrt{2}+2)i$

を直径の両端とする円上に存在する。

この円の中心は  $\frac{2\sqrt{2}+(2\sqrt{2}-2)i-2\sqrt{2}-(2\sqrt{2}+2)i}{2}=-2i,$

半径は  $|2\sqrt{2}+(2\sqrt{2}-2)i-(-2i)|=\sqrt{(2\sqrt{2})^2+(2\sqrt{2})^2}=4$

よって、点  $Q(w)$  は中心が  $\alpha=-2i$ 、半径が  $r=4$  の円上を動く。



$$\sqrt{5} \left| \frac{z-2-2i}{z+2-2i} \right| \leq 1 \text{ より } \quad \sqrt{5} |z-(2+2i)| \leq |z-(-2+2i)|$$

この不等式が表す領域の境界線は、2点  $2+2i$ ,  $-2+2i$  を結ぶ線分を  $1:\sqrt{5}$  に

$$\text{内分する点 } \frac{1 \cdot (-2+2i) + \sqrt{5} \cdot (2+2i)}{1 + \sqrt{5}} = 3 - \sqrt{5} + 2i$$

$$\text{外分する点 } \frac{-1 \cdot (-2+2i) + \sqrt{5} \cdot (2+2i)}{-1 + \sqrt{5}} = 3 + \sqrt{5} + 2i$$

を直径の両端とする円である.

$$\text{この円の中心は } \frac{(3-\sqrt{5})+2i+(3+\sqrt{5}+2i)}{2} = 3+2i,$$

$$\text{半径は } |(3-\sqrt{5}+2i)-(3+2i)| = \sqrt{5}$$

よって、点  $P(z)$  は中心が  $3+2i$ , 半径が  $\sqrt{5}$  の円の周上および内部に存在する.

別解1 終わり

別解2 複素数の実部・虚部を文字でおき、軌跡の方程式を導いてもよい.

$$w = x + yi \text{ とおくと, } \sqrt{2} |w-2| = |w-(4+2i)| \text{ より}$$

$$\sqrt{2} |(x+yi)-2| = |(x+yi)-(4+2i)|$$

$$2\{(x-2)^2 + y^2\} = (x-4)^2 + (y-2)^2$$

$$x^2 + y^2 + 4y = 12$$

$$\therefore x^2 + (y+2)^2 = 16$$

よって、点  $Q(w)$  は中心が  $\alpha = -2i$ , 半径が  $r = 4$  の円上を動く.

$$z = x + yi \text{ とおくと, } \sqrt{5} |z-(2+2i)| \leq |z-(-2+2i)| \text{ より}$$

$$\sqrt{5} |(x+yi)-(2+2i)| \leq |(x+yi)-(-2+2i)|$$

$$5\{(x-2)^2 + (y-2)^2\} \leq (x+2)^2 + (y-2)^2$$

$$4x^2 - 16x + 4y^2 - 24y + 32 \leq 0$$

$$\therefore (x-2)^2 + (y-3)^2 \leq 5$$

よって、点  $P(z)$  は中心が  $2+3i$ , 半径が  $\sqrt{5}$  の円の周上および内部に存在する.

別解2 終わり

[II]

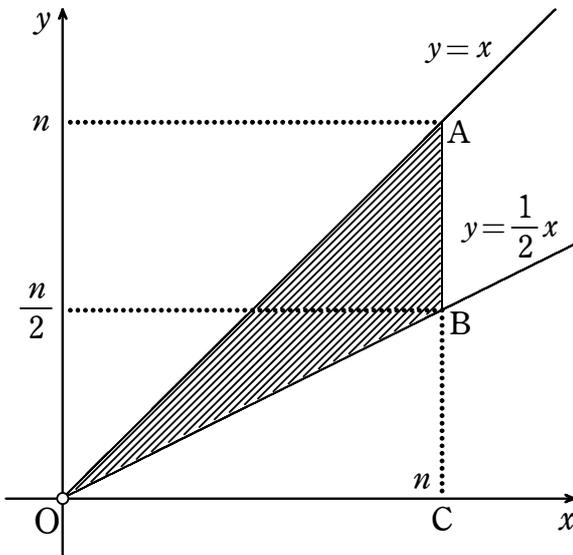
問1 赤球が取り出されたとき、その赤球が箱 A から取り出された確率  $p$  は

$$p = \frac{\text{(箱 A から赤球が取り出される確率)}}{\text{(赤球が取り出される確率)}} = \frac{\frac{1}{6} \cdot \frac{x}{n}}{\frac{1}{6} \cdot \frac{x}{n} + \frac{5}{6} \cdot \frac{y}{n}} = \frac{x}{x+5y}$$

問2  $\frac{1}{6} \leq p \leq \frac{2}{7}$  のとき  $\frac{1}{6} \leq \frac{x}{x+5y} \leq \frac{2}{7}$

$$\begin{cases} x+5y \leq 6x \\ 7x \leq 2x+10y \end{cases} \quad \therefore \begin{cases} y \leq x \\ y \geq \frac{1}{2}x \end{cases}$$

$1 \leq x \leq n, 1 \leq y \leq n$  と合わせると、条件を満たす点  $(x, y)$  の領域は次のようになる。



(i)  $n$  が偶数のとき

$y=k$  上の格子点を数えて、

$$\begin{aligned} N(n) &= \sum_{k=1}^{\frac{n}{2}} (2k-k+1) + \sum_{k=\frac{n}{2}+1}^n (n-k+1) = \sum_{k=1}^{\frac{n}{2}} (k+1) + \sum_{k=\frac{n}{2}+1}^n (n-k+1) \\ &= \frac{1}{2} \cdot \frac{n}{2} \cdot \left\{ 2 + \left( \frac{n}{2} + 1 \right) \right\} + \frac{1}{2} \cdot \frac{n}{2} \cdot \left( \frac{n}{2} + 1 \right) \\ &= \frac{1}{8} n(n+6) + \frac{1}{8} n(n+2) = \frac{1}{4} n(n+4) \end{aligned}$$

(ii)  $n$  が奇数のとき

$$\begin{aligned} N(n) &= \sum_{k=1}^{\frac{n-1}{2}} (k+1) + \sum_{k=\frac{n+1}{2}}^n (n-k+1) \\ &= \frac{1}{2} \cdot \frac{n-1}{2} \cdot \left\{ 2 + \left( \frac{n-1}{2} + 1 \right) \right\} + \frac{1}{2} \cdot \frac{n+1}{2} \cdot \left\{ \left( n - \frac{n+1}{2} + 1 \right) + 1 \right\} \\ &= \frac{1}{8} (n-1)(n+5) + \frac{1}{8} (n+1)(n+3) = \frac{1}{4} (n^2 + 4n - 1) \end{aligned}$$

したがって、 $N(n) = \begin{cases} \frac{1}{4} n(n+4) & (n : \text{偶数}) \\ \frac{1}{4} (n^2 + 4n - 1) & (n : \text{奇数}) \end{cases}$

問3  $n \geq 1$  のとき、 $n$  が偶数のときも奇数のときも  $N(n)$  が  $n$  について単調増加である。

$N(n) \doteq 2022$  とすると、 $N(n) \doteq \frac{1}{4}n^2$  より、

$$n \doteq \sqrt{4 \cdot 2000} = 40\sqrt{5} \doteq 40 \cdot 2.236 \doteq 89$$

ここで、

$$N(86) = \frac{1}{4} \cdot 86 \cdot 90 = 1935 < 2022$$

$$N(87) = \frac{1}{4}(87 \cdot 91 - 1) = 1979 < 2022$$

$$N(88) = \frac{1}{4} \cdot 88 \cdot 92 = 2024 > 2022$$

$$N(89) = \frac{1}{4}(89 \cdot 93 - 1) = 2069 > 2022$$

であるので、 $N(n) < 2022$  を満たす最大の整数  $n$  は、 $n = 87$

**別解** 問2のように、境界線が直線である領域内の格子点の個数は、次のように数えることもできる。

(i)  $n$  が偶数のとき

$$\begin{aligned} N(n) &= (\triangle OAC \text{ の格子点の個数}) - (\triangle OBC \text{ の格子点の個数}) \\ &\quad + (\text{原点を除く辺 } OB \text{ 上の格子点の個数}) \\ &= \frac{1}{2}\{(n+1)^2 + (n+1)\} - \frac{1}{2}\left\{(n+1)\left(\frac{n}{2} + 1\right) + \left(\frac{n}{2} + 1\right)\right\} + \frac{n}{2} \\ &= \frac{1}{2}(n+1)(n+2) - \frac{1}{2}(n+2)\left(\frac{n}{2} + 1\right) + \frac{n}{2} \\ &= \frac{1}{2}(n+2) \cdot \frac{n}{2} + \frac{n}{2} \\ &= \frac{1}{4}n(n+4) \end{aligned}$$

(ii)  $n$  が奇数のとき

$$\begin{aligned} N(n) &= (\triangle OAC \text{ の格子点の個数}) - (\triangle OBC \text{ の格子点の個数}) \\ &\quad + (\text{原点を除く辺 } OB \text{ 上の格子点の個数}) \\ &= \frac{1}{2}\{(n+1)^2 + (n+1)\} - \frac{1}{2}\left\{(n+1)\left(\frac{n-1}{2} + 1\right) + \left(\frac{n-1}{2} + 1\right)\right\} + \frac{n-1}{2} \\ &= \frac{1}{2}(n+1)(n+2) - \frac{1}{4}(n+1)(n+3) + \frac{n-1}{2} \\ &= \frac{1}{4}(n+1)^2 + \frac{n-1}{2} \\ &= \frac{1}{4}(n^2 + 4n - 1) \end{aligned}$$

**別解** 終わり

[Ⅲ]

問1 点 A (s, t) とおくと, この点における接線の方程式は  $\frac{sx}{a^2} + \frac{ty}{b^2} = 1$

この接線が直線  $l: mx + y - k = 0$  と一致するから

$$\frac{\frac{s}{a^2}}{m} = \frac{\frac{t}{b^2}}{1} = \frac{-1}{-k} \quad \therefore \begin{cases} s = \frac{a^2 m}{k} \\ t = \frac{b^2}{k} \end{cases}$$

$\frac{s^2}{a^2} + \frac{t^2}{b^2} = 1$  が成り立つから, これに代入すると

$$\frac{a^2 m^2}{k^2} + \frac{b^2}{k^2} = 1 \quad \therefore k^2 = a^2 m^2 + b^2$$

$k > 0$  であるから  $k = \sqrt{a^2 m^2 + b^2}$

このとき  $s = \frac{a^2}{\sqrt{a^2 m^2 + b^2}}, t = \frac{b^2}{\sqrt{a^2 m^2 + b^2}}$

よって, 点 A の座標は  $\left( \frac{m a^2}{\sqrt{a^2 m^2 + b^2}}, \frac{b^2}{\sqrt{a^2 m^2 + b^2}} \right)$

問2 線分 OH の長さは, 原点 O と直線  $l$  との距離であるから

$$\frac{|-k|}{\sqrt{m^2 + 1}} = \frac{k}{\sqrt{m^2 + 1}} = \frac{\sqrt{a^2 m^2 + b^2}}{\sqrt{m^2 + 1}}$$

問3  $\cos \theta = \frac{OH}{OA}$  より  $\cos^2 \theta = \frac{\frac{a^2 m^2 + b^2}{m^2 + 1}}{\frac{m^2 a^4}{a^2 m^2 + b^2} + \frac{b^4}{a^2 m^2 + b^2}} = \frac{(a^2 m^2 + b^2)^2}{(m^2 + 1)(m^2 a^4 + b^4)}$

よって,  $0 < \theta < \frac{\pi}{2}$  より  $\sin \theta > 0$  であるから

$$\begin{aligned} \sin \theta &= \sqrt{1 - \cos^2 \theta} = \sqrt{1 - \frac{(a^2 m^2 + b^2)^2}{(m^2 + 1)(m^2 a^4 + b^4)}} \\ &= \sqrt{\frac{(m^4 a^4 + m^2 b^4 + m^2 a^4 + b^4) - (a^4 m^4 + 2a^2 b^2 m^2 + b^4)}{(m^2 + 1)(m^2 a^4 + b^4)}} \\ &= \sqrt{\frac{m^2(a^2 - b^2)^2}{(m^2 + 1)(m^2 a^4 + b^4)}} \end{aligned}$$

$a > b, m > 0$  より  $\sin \theta = \frac{m(a^2 - b^2)}{\sqrt{(m^2 + 1)(m^2 a^4 + b^4)}}$

問4 問3の  $\sin \theta$  について、相加・相乗平均の不等式を用いると

$$\begin{aligned} \sin \theta &= (a^2 - b^2) \sqrt{\frac{m^2}{(m^2 + 1)(m^2 a^4 + b^4)}} = \frac{a^2 - b^2}{\sqrt{a^4 m^2 + (a^4 + b^4) + \frac{b^4}{m^2}}} \\ &\leq \frac{a^2 - b^2}{\sqrt{2} \sqrt{a^4 m^2 \cdot \frac{b^4}{m^2} + a^4 + b^4}} = \frac{a^2 - b^2}{a^2 + b^2} \end{aligned}$$

等号が成り立つのは  $a^4 m^2 = \frac{b^4}{m^2} \quad \therefore m^4 = \frac{b^4}{a^4}$

$a > b > 0, m > 0$  より  $m = \frac{b}{a}$

よって、 $\sin \theta$  は  $m = \frac{b}{a}$  のとき、最大値  $M(a, b) = \frac{a^2 - b^2}{a^2 + b^2}$  をとる。

問5  $a - b = X, b - 1 = Y$  とおくと、 $a > b > 0, (a - b)^2 + (b - 1)^2 \leq \frac{3}{4}$  より

$$X^2 + Y^2 \leq \frac{3}{4}, X > 0, Y > -1 \quad \dots\dots \textcircled{1}$$

$a = X + Y + 1, B = Y + 1$  であるから

$$M(a, b) = \frac{(X + Y + 1)^2 - (Y + 1)^2}{(X + Y + 1)^2 + (Y + 1)^2} = \frac{X^2 + 2X(Y + 1)}{X^2 + 2X(Y + 1) + 2(Y + 1)^2} = \frac{1 + 2 \cdot \frac{Y + 1}{X}}{1 + 2 \cdot \frac{Y + 1}{X} + 2 \cdot \left(\frac{Y + 1}{X}\right)^2}$$

$$\frac{Y + 1}{X} = k \quad \dots\dots \textcircled{2} \quad \text{とおくと} \quad M(a, b) = \frac{2k + 1}{2k^2 + 2k + 1}$$

また、 $\textcircled{2}$  より  $Y = kX - 1$  であり、これは  $XY$  平面上において、傾き  $k, Y$  切片  $-1$  の直線を表す。この直線と、 $\textcircled{1}$  が表す  $XY$  平面上の領域が共有点を持つときの、 $k$  のとりうる値の範囲は

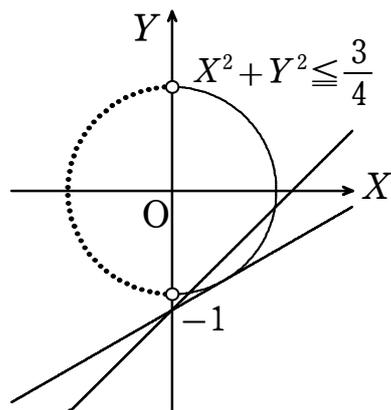
$$\begin{cases} \frac{|-1|}{\sqrt{k^2 + 1}} \leq \frac{3}{4} \\ k > 0 \end{cases} \Leftrightarrow \begin{cases} \frac{1}{3} \leq k^2 \\ k > 0 \end{cases} \Leftrightarrow k \geq \frac{1}{\sqrt{3}}$$

よって、 $k \geq \frac{1}{\sqrt{3}}$  における  $M(a, b)$  の最大値を求める。

$$\begin{aligned} \frac{d}{dk} M(a, b) &= \frac{2 \cdot (2k^2 + 2k + 1) - (2k + 1) \cdot (4k + 2)}{(2k^2 + 2k + 1)^2} \\ &= \frac{-4k(k + 1)^2}{(2k^2 + 2k + 1)^2} < 0 \end{aligned}$$

$M(a, b)$  は  $k \geq \frac{1}{\sqrt{3}}$  において減少関数であるから、 $k = \frac{1}{\sqrt{3}}$  のときに最小値をとり、

その最小値は  $M(a, b) = \frac{2 \cdot \frac{1}{\sqrt{3}} + 1}{2 \cdot \frac{2}{3} + 2 \cdot \frac{1}{\sqrt{3}} + 1} = \frac{3 + 2\sqrt{3}}{5 + 2\sqrt{3}} = \frac{3 + 4\sqrt{3}}{13}$



別解1 問1は楕円と直線の方程式を連立させてもよい。

$$\frac{x^2}{a^2} + \frac{y^2}{b^2} = 1 \text{ と } y = -mx + k \text{ を連立させて } b^2x^2 + a^2(-mx + k)^2 = a^2b^2$$

$$(a^2m^2 + b^2)x^2 - 2mka^2x + a^2(k^2 - b^2) = 0 \quad \dots\dots③$$

③の判別式を  $D$  とすると  $\frac{D}{4} = m^2k^2a^4 - (a^2m^2 + b^2) \cdot a^2(k^2 - b^2) = a^2b^2(a^2m^2 + k^2 - b^2)$

楕円  $C$  と直線  $l$  が接するとき、 $D=0$  であるから  $a^2m^2 + k^2 - b^2 = 0 \quad \therefore k^2 = a^2m^2 + b^2$

$k > 0$  であるから  $k = \sqrt{a^2m^2 + b^2}$

このとき、③の重解は  $x = \frac{mka^2}{a^2m^2 + b^2} = \frac{ma^2\sqrt{a^2m^2 + b^2}}{a^2m^2 + b^2} = \frac{ma^2}{\sqrt{a^2m^2 + b^2}}$

$y = -mx + k = -mx + \sqrt{a^2m^2 + b^2}$  に代入すると

$$y = -m \cdot \frac{ma^2}{\sqrt{a^2m^2 + b^2}} + \sqrt{a^2m^2 + b^2} = \frac{-m^2a^2 + a^2m^2 + b^2}{\sqrt{a^2m^2 + b^2}} = \frac{b^2}{\sqrt{a^2m^2 + b^2}}$$

よって、点  $A$  の座標は  $\left( \frac{ma^2}{\sqrt{a^2m^2 + b^2}}, \frac{b^2}{\sqrt{a^2m^2 + b^2}} \right)$

別解1 終わり

別解2 問5の最大値は、次のように求めることもできる。

$$\frac{b}{a} = x \text{ とおくと } M(a, b) = \frac{1 - \left(\frac{b}{a}\right)^2}{1 + \left(\frac{b}{a}\right)^2} = \frac{1 - x^2}{1 + x^2} = \frac{-(1 + x^2) + 2}{1 + x^2} = \frac{2}{1 + x^2} - 1$$

$\frac{b}{a} = x$  より  $b = ax$  であるから、 $(a-b)^2 + (b-1)^2 \leq \frac{3}{4}$  に代入すると  $\{a(1-x)\}^2 + (ax-1)^2 \leq \frac{3}{4}$

$$\therefore (2x^2 - 2x + 1)a^2 - 2xa + \frac{1}{4} \leq 0 \quad \dots\dots④$$

また、 $a > b > 0$  より  $a > ax > 0 \quad \therefore 0 < x < 1$

この不等式を満たす  $a$  が  $a > 0$  の範囲に存在する条件を求める。

$$f(a) = (2x^2 - 2x + 1)a^2 - 2xa + \frac{1}{4} \text{ とおくと } 2x^2 - 2x + 1 = 2\left(x - \frac{1}{2}\right)^2 + \frac{1}{2} > 0$$

$y = f(a)$  は下に凸の放物線であり、軸について  $\frac{x}{2x^2 - 2x + 1} > 0$  ( $\because x > 0$ )

よって、不等式④を満たす  $a$  が  $a > 0$  の範囲に存在する条件は、 $f(a) = 0$  の判別式を  $D$  とすると

$$\frac{D}{4} = x^2 - (2x^2 - 2x + 1) \cdot \frac{1}{4} \geq 0$$

$$2x^2 + 2x - 1 \geq 0 \quad \therefore x \leq \frac{-1 - \sqrt{3}}{2}, \quad \frac{-1 + \sqrt{3}}{2} \leq x$$

$0 < x < 1$  より  $\frac{-1 + \sqrt{3}}{2} \leq x < 1$

$M(a, b)$  は  $x$  について減少関数であるから、 $x = \frac{-1 + \sqrt{3}}{2}$  のとき最大となり、その最大値は

$$\frac{2}{1 + \left(\frac{-1 + \sqrt{3}}{2}\right)^2} - 1 = \frac{4}{4 - \sqrt{3}} - 1 = \frac{4(4 + \sqrt{3})}{13} - 1 = \frac{3 + 4\sqrt{3}}{13}$$

別解2 終わり

別解3 問5の最大値は、「予選決勝法」により求めることもできる。

$b$  を固定し、 $a$  を変数とみる。

$$M(a, b) = \frac{(a^2 + b^2) - 2b^2}{a^2 + b^2} = 1 - \frac{2b^2}{a^2 + b^2}$$

であるから、 $a$  を変数とすると  $M(a, b)$  は増加関数である。

$$\text{また、}(a-b)^2 + (b-1)^2 \leq \frac{3}{4} \text{ より } (a-b)^2 \leq \frac{3}{4} - (b-1)^2$$

$$a > b > 0 \text{ より } a - b > 0 \text{ であるから } 0 < a - b \leq \sqrt{\frac{3}{4} - (b-1)^2}$$

$$\therefore b < a \leq b + \sqrt{\frac{3}{4} - (b-1)^2}$$

$$\text{よって、} a \text{ の最大値は } a = b + \sqrt{\frac{3}{4} - (b-1)^2} = b + \frac{1}{2} \sqrt{-4b^2 + 8b - 1}$$

次に、 $b$  を変数とみる。 $M(a, b)$  を  $b$  について微分すると

$$\begin{aligned} \frac{d}{db} M(a, b) &= \frac{(2a \cdot \frac{da}{db} - 2b) \cdot (a^2 + b^2) - (a^2 - b^2) \cdot (2a \cdot \frac{da}{db} + 2b)}{(a^2 + b^2)^2} \\ &= \frac{-4a^2b + 4ab^2 \cdot \frac{da}{db} - 4ab(b \cdot \frac{da}{db} - a)}{(a^2 + b^2)^2} \end{aligned}$$

$a > b > 0$  より、 $\frac{d}{db} M(a, b)$  の符号は  $b \cdot \frac{da}{db} - a$  の符号と一致する。

$$\frac{da}{db} = 1 + \frac{-8b + 8}{4\sqrt{-4b^2 + 8b - 1}} = 1 + \frac{-2b + 2}{\sqrt{-4b^2 + 8b - 1}} \text{ であるから}$$

$$\begin{aligned} b \cdot \frac{da}{db} - a &= b \cdot \left(1 + \frac{-2b + 2}{\sqrt{-4b^2 + 8b - 1}}\right) - \left(b + \frac{1}{2} \sqrt{-4b^2 + 8b - 1}\right) \\ &= \frac{-4b(b-1) - (-4b^2 + 8b - 1)}{2\sqrt{-4b^2 + 8b - 1}} = \frac{1 - 4b}{2\sqrt{-4b^2 + 8b - 1}} \end{aligned}$$

よって、 $M(a, b)$  の  $b$  に関する増減は、次のようになる。

$b$	0	$\frac{1}{4}$	
$\frac{d}{db} M(a, b)$		+	-
$M(a, b)$		↗	↘

したがって、 $M(a, b)$  は  $b = \frac{1}{4}$  のときに最大値をとる。

$$b = \frac{1}{4} \text{ のとき } a = \frac{1}{4} + \frac{1}{2} \sqrt{-\frac{1}{4} + 2 - 1} = \frac{1 + \sqrt{3}}{4}$$

よって、 $a = \frac{1 + \sqrt{3}}{4}$ 、 $b = \frac{1}{4}$  のとき  $M(a, b)$  は最大値をとり、その最大値は

$$\frac{\left(\frac{1 + \sqrt{3}}{4}\right)^2 - \left(\frac{1}{4}\right)^2}{\left(\frac{1 + \sqrt{3}}{4}\right)^2 + \left(\frac{1}{4}\right)^2} = \frac{3 + 2\sqrt{3}}{5 + 2\sqrt{3}} = \frac{3 + 4\sqrt{3}}{13}$$

[IV]

問1  $f(x) = \sqrt{\frac{1-\sqrt{x}}{1+\sqrt{x}}} > 0$  であるから、両辺の自然対数をとると

$$\log f(x) = \log \sqrt{\frac{1-\sqrt{x}}{1+\sqrt{x}}} = \frac{1}{2} \{ \log(1-\sqrt{x}) - \log(1+\sqrt{x}) \}$$

$0 < x < 1$  のとき、両辺を  $x$  で微分すると

$$\frac{f'(x)}{f(x)} = \frac{1}{2} \left( \frac{-\frac{1}{2\sqrt{x}}}{1-\sqrt{x}} - \frac{\frac{1}{2\sqrt{x}}}{1+\sqrt{x}} \right) = -\frac{1}{2\sqrt{x}(1-x)}$$

$$\therefore f'(x) = -\frac{f(x)}{2\sqrt{x}(1-x)} < 0 \quad (\because f(x) > 0 \text{ かつ } 0 < x < 1)$$

また、 $g(x) = \sqrt{x}(1-x)$  とおくと  $g'(x) = \frac{1}{2\sqrt{x}}(1-x) + \sqrt{x} \cdot (-1) = \frac{1-3x}{2\sqrt{x}}$

$f'(x) = -\frac{1}{2} \cdot \frac{f(x)}{g(x)}$  であるから、 $x$  で微分すると

$$\begin{aligned} f''(x) &= -\frac{1}{2} \cdot \frac{f'(x) \cdot g(x) - f(x) \cdot g'(x)}{\{g(x)\}^2} \\ &= -\frac{\frac{f(x)}{2g(x)} \cdot g(x) - f(x) \cdot \frac{1-3x}{2\sqrt{x}}}{2x(1-x)^2} = -\frac{3x - \sqrt{x} - 1}{4x\sqrt{x}(1-x)^2} f(x) \end{aligned}$$

$f''(x) = 0$  のとき  $3x - \sqrt{x} - 1 = 0$

$$3(\sqrt{x})^2 - \sqrt{x} - 1 = 0 \quad \therefore \sqrt{x} = \frac{1 \pm \sqrt{13}}{6}$$

$\sqrt{x} > 0$  であるから  $\sqrt{x} = \frac{1 + \sqrt{13}}{6} \quad \therefore x = \left( \frac{1 + \sqrt{13}}{6} \right)^2 = \frac{7 + \sqrt{13}}{18}$

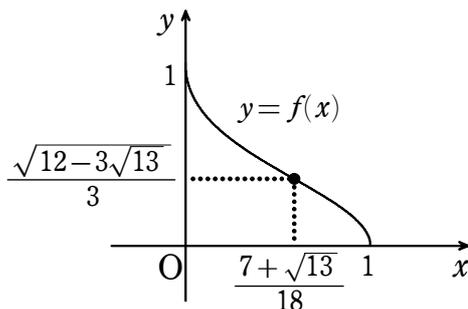
したがって、 $f(x)$  の  $0 \leq x \leq 1$  における増減、凹凸は次のようになる。

$x$	0		$\frac{7 + \sqrt{13}}{18}$		1
$f'(x)$		-		-	
$f''(x)$		+	0	-	
$f(x)$	1	↘		↘	0

$$f\left(\frac{7 + \sqrt{13}}{18}\right) = \sqrt{\frac{1 - \frac{1 + \sqrt{13}}{6}}{1 + \frac{1 + \sqrt{13}}{6}}} = \sqrt{\frac{5 - \sqrt{13}}{7 + \sqrt{13}}} = \frac{\sqrt{12 - 3\sqrt{13}}}{3}$$

よって、 $y = f(x)$  の変曲点の座標は  $\left( \frac{7 + \sqrt{13}}{18}, \frac{\sqrt{12 - 3\sqrt{13}}}{3} \right)$

また、 $y = f(x)$  のグラフは下の図のようになる。

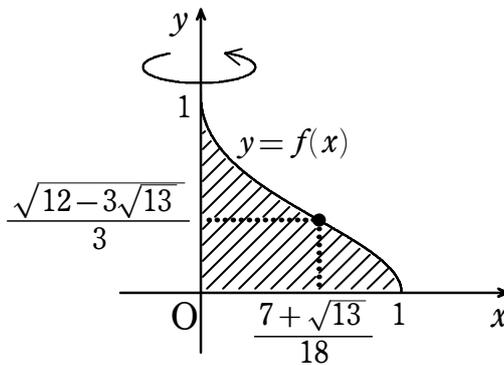


問2 求める体積を  $V$  とすると、右図の斜線部分を  $y$  軸のまわりに回転させた立体の体積であるから

$$V = \int_0^1 2\pi x \sqrt{\frac{1-\sqrt{x}}{1+\sqrt{x}}} dx$$

$$\sqrt{x} = t \text{ とおくと, } \frac{dt}{dx} = \frac{1}{2\sqrt{x}}$$

$$\therefore dx = 2\sqrt{x} dt = 2t dt, \quad \begin{array}{l|l} x & 0 \rightarrow 1 \\ t & 0 \rightarrow 1 \end{array}$$



$$\text{よって } V = 2\pi \int_0^1 t^2 \sqrt{\frac{1-t}{1+t}} \cdot 2t dt = 4\pi \int_0^1 \frac{t^3}{1+t} \sqrt{1-t^2} dt$$

$$t = \sin \theta \left( -\frac{\pi}{2} \leq \theta \leq \frac{\pi}{2} \right) \text{ とおくと } dt = \cos \theta d\theta, \quad \begin{array}{l|l} t & 0 \rightarrow 1 \\ \theta & 0 \rightarrow \frac{\pi}{2} \end{array}$$

したがって

$$\begin{aligned} V &= 4\pi \int_0^{\frac{\pi}{2}} \frac{\sin^3 \theta}{1 + \sin \theta} \sqrt{1 - \sin^2 \theta} \cdot \cos \theta d\theta \\ &= 4\pi \int_0^{\frac{\pi}{2}} \frac{\sin^3 \theta \cos^2 \theta}{1 + \sin \theta} d\theta = 4\pi \int_0^{\frac{\pi}{2}} \frac{\sin^3 \theta (1 - \sin^2 \theta)}{1 + \sin \theta} d\theta \\ &= 4\pi \int_0^{\frac{\pi}{2}} \sin^3 \theta (1 - \sin \theta) d\theta = 4\pi \int_0^{\frac{\pi}{2}} (\sin^3 \theta - \sin^4 \theta) d\theta \end{aligned}$$

ここで、 $I_n = \int_0^{\frac{\pi}{2}} \sin^n \theta d\theta$  ( $n$  は 0 以上の整数) とすると、

$$V = 4\pi(I_3 - I_4)$$

また、 $I_{n+2} = \frac{n+1}{n+2} I_n$  が成り立ち、

$$I_0 = \int_0^{\frac{\pi}{2}} 1 d\theta = \frac{\pi}{2}, \quad I_1 = \int_0^{\frac{\pi}{2}} \sin \theta d\theta = \left[ -\cos \theta \right]_0^{\frac{\pi}{2}} = 1$$

であるから

$$I_3 = \frac{2}{3} I_1 = \frac{2}{3} \cdot 1 = \frac{2}{3}, \quad I_4 = \frac{3}{4} I_2 = \frac{3}{4} \cdot \frac{1}{2} I_0 = \frac{3}{8} \cdot \frac{\pi}{2} = \frac{3}{16} \pi$$

$$\text{よって } V = 4\pi \left( \frac{2}{3} - \frac{3}{16} \pi \right) = \pi \left( \frac{8}{3} - \frac{3}{4} \pi \right)$$

別解1 問1の微分計算は、変数変換により関数を簡単な形にしてもよい。

$$f(x) = \sqrt{\frac{1-\sqrt{x}}{1+\sqrt{x}}} \quad \text{より} \quad \{f(x^2)\}^2 = \frac{1-x}{1+x}$$

$$\text{両辺を } x \text{ で微分すると} \quad 4xf'(x^2)f(x^2) = \frac{-1 \cdot (1+x) - (1-x) \cdot 1}{(1+x)^2} = -\frac{2}{(1+x)^2}$$

$$x \neq 0 \text{ のとき} \quad f'(x^2) = -\frac{1}{2x(1+x)^2 f(x^2)}$$

$$\text{よって} \quad f'(x) = -\frac{1}{2\sqrt{x}(1+\sqrt{x})^2 f(x)} = -\frac{1}{2\sqrt{x}(1+\sqrt{x})^{\frac{3}{2}}(1-\sqrt{x})^{\frac{1}{2}}}$$

$$\text{また} \quad \{f'(x^2)\}^{-2} = 4x^2(1+x)^4 \{f(x^2)\}^2 = 4x^2(1+x)^3(1-x)$$

両辺を  $x$  で微分すると

$$\begin{aligned} \frac{-4xf''(x^2)}{\{f'(x^2)\}^3} &= 8x(1+x)^3(1-x) + 12x^2(1+x)^2(1-x) - 4x^2(1+x)^3 \\ &= 4x(1+x)^2\{2(1-x^2) + 3x(1-x) - x(1+x)\} \\ &= -8x(1+x)^2(3x^2 - x - 1) \end{aligned}$$

$$\therefore f''(x^2) = 2(1+x)^2(3x^2 - x - 1)\{f'(x^2)\}^3$$

$$\text{よって} \quad f''(x) = 2(1+\sqrt{x})^2(3x - \sqrt{x} - 1)\{f'(x)\}^3 = -\frac{3x - \sqrt{x} - 1}{4x\sqrt{x}(1+\sqrt{x})^{\frac{5}{2}}(1-\sqrt{x})^{\frac{3}{2}}}$$

別解1 終わり

別解2 問2の体積は、逆関数を用いて求めてもよい。

$$y = \sqrt{\frac{1-\sqrt{x}}{1+\sqrt{x}}} \quad \text{より} \quad \frac{1-\sqrt{x}}{1+\sqrt{x}} = y^2$$

$$(1+y^2)\sqrt{x} = 1-y^2$$

$$\sqrt{x} = \frac{1-y^2}{1+y^2} \quad \therefore \quad x = \left(\frac{1-y^2}{1+y^2}\right)^2$$

求める体積を  $V$  とすると

$$V = \int_0^1 \pi x^2 dy = \pi \int_0^1 \left(\frac{1-y^2}{1+y^2}\right)^4 dy = \pi \int_0^1 \left(\frac{2}{1+y^2} - 1\right)^4 dy$$

$$\text{ここで, } y = \tan \theta \quad \left(-\frac{\pi}{2} < \theta < \frac{\pi}{2}\right) \text{ とおくと} \quad \frac{dy}{d\theta} = \frac{1}{\cos^2 \theta}, \quad \begin{array}{l|l} y & 0 \rightarrow 1 \\ \theta & 0 \rightarrow \frac{\pi}{4} \end{array}$$

$$\begin{aligned} \text{よって,} \quad V &= \pi \int_0^{\frac{\pi}{4}} \left(\frac{2}{1+\tan^2 \theta} - 1\right)^4 \cdot \frac{1}{\cos^2 \theta} d\theta \\ &= \pi \int_0^{\frac{\pi}{4}} (2\cos^2 \theta - 1)^4 \cdot \frac{1}{\cos^2 \theta} d\theta \\ &= \pi \int_0^{\frac{\pi}{4}} \left(16\cos^6 \theta - 32\cos^4 \theta + 24\cos^2 \theta - 8 + \frac{1}{\cos^2 \theta}\right) d\theta \end{aligned}$$

ここで

$$\int_0^{\frac{\pi}{4}} \left( -8 + \frac{1}{\cos^2 \theta} \right) d\theta = \left[ -8\theta + \tan \theta \right]_0^{\frac{\pi}{4}} = -2\pi + 1,$$

$$\int_0^{\frac{\pi}{4}} 24\cos^2 \theta d\theta = 12 \int_0^{\frac{\pi}{4}} (1 + \cos 2\theta) d\theta = 12 \left[ \theta + \frac{1}{2} \sin 2\theta \right]_0^{\frac{\pi}{4}} = 3\pi + 6$$

$$\int_0^{\frac{\pi}{4}} 32\cos^4 \theta d\theta = 8 \int_0^{\frac{\pi}{4}} (1 + \cos 2\theta)^2 d\theta = 8 \int_0^{\frac{\pi}{4}} (1 + 2\cos 2\theta + \cos^2 2\theta) d\theta$$

$$= 8 \int_0^{\frac{\pi}{4}} \left\{ 1 + 2\cos 2\theta + \frac{1}{2}(1 + \cos 4\theta) \right\} d\theta$$

$$= 8 \int_0^{\frac{\pi}{4}} \left( \frac{3}{2} + 2\cos 2\theta + \frac{1}{2}\cos 4\theta \right) d\theta$$

$$= \left[ 12\theta + 8\sin 2\theta + \sin 4\theta \right]_0^{\frac{\pi}{4}} = 3\pi + 8$$

$$\int_0^{\frac{\pi}{4}} 16\cos^6 \theta d\theta = 2 \int_0^{\frac{\pi}{4}} (1 + \cos 2\theta)^3 d\theta$$

$$= 2 \int_0^{\frac{\pi}{4}} (1 + 3\cos 2\theta + 3\cos^2 2\theta + \cos^3 2\theta) d\theta$$

$$= 2 \int_0^{\frac{\pi}{4}} \left\{ 1 + 3\cos 2\theta + \frac{3}{2}(1 + \cos 4\theta) + \frac{1}{4}(3\cos 2\theta + \cos 6\theta) \right\} d\theta$$

$$= 2 \int_0^{\frac{\pi}{4}} \left( \frac{5}{2} + \frac{15}{4}\cos 2\theta + \frac{3}{2}\cos 4\theta + \frac{1}{4}\cos 6\theta \right) d\theta$$

$$= \left[ 5\theta + \frac{15}{4}\sin 2\theta + \frac{3}{4}\sin 4\theta + \frac{1}{12}\sin 6\theta \right]_0^{\frac{\pi}{4}}$$

$$= \frac{5}{4}\pi + \frac{11}{3}$$

以上より

$$V = \pi \left\{ \frac{5}{4}\pi + \frac{11}{3} - (3\pi + 8) + 3\pi + 6 - 2\pi + 1 \right\} = \pi \left( \frac{8}{3} - \frac{3}{4}\pi \right)$$

別解2 終わり